



安藤宏子と遊草会 (東京・名古屋・大分)

藍・絞染展

2021年4月19日(月)~4月25日(日) 10:30~18:30
(初日13:00から、最終日14:30まで)

サブウェイギャラリーM

絞り染めは、布の一部を糸や紐で括る、縫い締める、板で挟むなどして、染料が浸透するのを防ぐことで、模様を染め出す方法です。絞り上げて小さな塊となった生地を、染液に浸し、その絞りを解くと、立体的な模様を持つ美しい布が姿を現します。染め上がった布には、必然的にシボやにじみが生じ、他の染色方法では得ることのできない独特な質感があります。

世界各地で生活のなかから生まれた古く素朴な染色方法ですが、特に日本では着物文化を土台に、その技法が高度かつ多様に発展しました。100種類以上の技法が伝承され、日本は世界に誇る絞り染めの宝庫となっています。

34回目を迎える本作品展では、絞り染め作家安藤宏子と、安藤が主宰する遊草会の会員によるタペストリーなど約40点の作品を展示するほか、失われつつある伝統的な絞り染めの技法・工程も紹介します。

安藤宏子 1942年大分県生まれ、実践女子大学卒業、神奈川県藤沢市在住。絞り染め作家。工房「遊草庵」主宰。国内外で絞り染め技法の調査研究に当たる。世界デザイン博覧会の大天井幕「清響」を制作（1989）、「日本の絞り」（2001 ドイツ・クレフェルト染織美術館）、「安藤宏子展」（2008 銀座ミキモト本店）、「安藤宏子『豊後絞りの魅力』展」（2010 大分県立芸術文化短期大学・文化庁主宰）ほか各地で作品を発表。著書に『日本の絞り技法』（日本放送出版協会）、『日本の絞り』（京都書院）、『絞り染め大全』『世界の絞り染め大全』（誠文堂新光社）など。主宰する「遊草会」では、名古屋、東京、大分の各教室で、会員に技術指導を行っている。

第34回 安藤宏子と遊草会 (東京・名古屋・大分) **藍・絞染展**

会期：2021年4月19日（月）～4月25日（日）

10：30～18：30 初日13：00から、最終日14：30まで

会場：サブウェイギャラリーM

